

バス運行体制一体化に向けた協議の進捗状況(H30年3月末時点)

協議項目		進捗状況	今後の作業予定
バス再編計画に係る協議(再編実施計画作成)	始発終点の見直し 系統の見直し 運行本数の見直し ダイヤ編成	(1)ダイヤ編成全体の考え方 ①利用状況に合わせたダイヤ設定 ②極力、等間隔のダイヤ設定(昼間の時間帯等) ③系統整理等によるわかりやすい路線への変更 ④区間運行バスの設定(行先を地域の主要バス停に変更等) ⑤受給バランスを考慮したバス運行本数の適正化 (2)運転士の確保状況に合わせた現実的な作業について ①上記(1)を踏まえ、ダイヤの仮設定は終了。 ②運転士の勤務表におとしこみ、運行可能かどうか作業中。 ・西肥自動車、させぼバスの勤務条件がクリアーされているか。 ・所属営業所と始発、終点等うまく整合性がとれているか。	路線の区間毎の本数等、確定した内容を次回、報告予定。(時刻や行先等については微調整が続くと想定)
	バス停見直し	佐世保駅前の西肥自動車・交通局の現バス停の整理・統合についてバス事業者で検討中。利用者にわかりやすい形を目指す。	方針について次回、報告予定。
させぼバスに係る協議	共通定期券	長崎運輸支局にも相談済み。通勤通学定期の対象区間であれば、どちらのバスにも乗車可能となるよう、バス事業者とシステム会社で協議中。	以降、作業をすすめる。
	させぼバスの自社路線 させぼバス受託運行範囲	ダイヤ編成作業の(2)②の終了後に6台分の自社路線及び受託する運行範囲については決定する予定。	具体路線等について次回、報告予定。
	委託料の算出方法	バスの運行1キロあたりに係る経費単価等を参考に、「単価×委託走行キロ」を委託料の算出根拠にすることを一案として、協議を行っているところである。	方針について次回、報告予定。
	貸切バス	現行、交通局またはさせぼバスが長期契約で受けている貸切業務(俵浦スクールバス2台、養護学校の3台のうち1台)については継続してさせぼバスが運行する。長期契約以外の貸切業務についてもさせぼバスでの継続に努める。	
運転士に係る協議	労働条件(時間等)	西肥・させぼバスの労働条件は、これまで通り各々の労働条件とすることで認識が一致している。	協議終了。
	労働条件(給与)	・西肥自動車については過去10年にわたり、前年以上の昇給を続けてきており、県内平均年間給与である約370万円を目指していく。 ・させぼバスについては平成30年4月から賃金の改定予定であり西肥自動車と同様に年間給与約370万円を目指していく。	

	させぼバスからの移籍	バス路線一体化の協議を開始した当初は、させぼバスから西肥自動車への移籍希望者も想定されていたが、現時点ではそのような動きはないことから、協議は行わないことで、両事業者の認識が一致している。	
交通局資産に係る協議	西肥自動車とさせぼバスの共同利用の方法	バス事業に必要な営業所・車庫・転換場については、バス運行上今後も必要となり、西肥自動車とさせぼバスが、資産を管理する市の該当部署から貸付を受けることとなる。	状況について次回、報告予定。
	貸与・売買、有償・無償	①交通局の車両は西肥自動車に有償売買。バス停上屋については、利用者の利便性確保の観点から無償で譲渡し、その後の管理を西肥自動車にお願いする方向。 ②上記①以外は貸与。原則は市で定めている公有財産使用料の算定に則り有償となるが、他の自治体の事例では特例措置を設けているところがあることから、一体化後のバス事業者による収支シミュレーションをみながら、市として判断することになる。	
行政関与に係る協議	市・事業者共同による調査作業について(サイクル・内容) 協定書による関与	①バス事業をとりまく環境をみながら、3年～5年の間隔でバス事業の実態を市・事業者共同調査により把握したうえで、その後のバス路線の在り方等について計画を作成する方向性について認識は一致している。 ②上記①に基づき、バス事業者がダイヤ及び関連するバスサービスの案内・広報を行う際には、市も最大限の協力を行い、利用者が混乱することがないようにすることを合意書や協定等に盛り込む方向である。 ③上記の他、バス事業としての決算状況報告をどのような形で開示していくか等、基本合意書や協定等に盛り込んでいく方向で協議をすすめている。	
	その他の関与について	上記の他、西肥自動車から、行政関与についての提案をお願いしている。	
移行に係る各種手続き・作業に係る協議	移行日の決定	利用者の混乱を最小限に抑えることを基本に、バス車両・バス停の移行作業、交通局の会計処理等の様々な要素を勘案しながら平成31年3月末までの移行日を検討中。	
その他	ICカードの更新 敬老福祉パスの取扱い	一体化後のH31年度～32年度中に全国相互利用カード「ニモカ」を導入することから、西肥自動車とさせぼバスで必要に応じた協議を行うこととしている。 敬老福祉パスは継続する方針であり、これを含むスマートカードの機能をニモカに付加することは可能であるとバス事業者ではシステム会社に確認をしている。	